

施策評価表

施策分野	6-1 観光										
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。										
施策	(1) 地域資源の磨き上げと掘り起こし										
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり					－					
施策の方向性	○ウェルネスツーリズムの促進を図ります ○地域間の周遊性の向上を図ります ○多様な人材が協働して参加するコンテンツ開発に取り組みます										
施策を構成する主な事務事業	観光振興・宣伝事業										
実施した主要内容	ウェルネスを体現する新しい観光コンテンツの伴奏支援、市内事業者や市国際観光協会等と連携した事業による観光消費額を伸ばす取組を行った。地域資源である温泉やタンサンを活用したイベントの実施や新たなコンテンツを提供するとともに、インバウンド向けコンテンツの造成にも取り組んだ。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		宿泊者数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	100839	目標	138000	139750	141500	143250	145000	146750	
				実績	143915	149402	145617				
		達成状況とその理由	ホテルの廃業により前年度から市内宿泊者数は微減となったが、施設の再開等の影響により宿泊者数は目標を達成した。								
	②	指標名									めざす方向性
		官民連携による新規観光コンテンツ提供数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		コンテンツ	－	目標	1	1	1	1	1	1	
				実績	4	4	3				
		達成状況とその理由	3つのコンテンツを商品化し、目標を達成した。								
	③	指標名									めざす方向性
		観光消費額									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		百万円	39719	目標	88503	88690	88878	89065	89252	89439	
				実績	78626	102383	未確定				
		達成状況とその理由	例年10月頃に県より発表されるため、現時点での実績値及び達成状況は不明である。								
	④	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									

担当部局 評価	B	評価の 理由	観光需要の回復により市内における観光客数は増加し宿泊者数も目標を達成した。コンテンツ開発においても、令和6年度は3コンテンツを商品化するなど順調に推移している。いずれのコンテンツも既存の地域資源を活用することで新たなコンテンツが創出されており、めざすまちの姿の実現に寄与している。指標①について目標は達成したものの昨年度数値から減となったためB評価とした。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	開発したコンテンツが観光コンテンツとして定着するためには、事業の継続性が必要不可欠であり、事業者の意欲に大きく左右されることから継続した支援が必要である。また、その魅力が市内外や国外へ伝わり訪れる人が増加するためには、コンテンツをより大きなものに成長させていく必要がある。改善点の洗い出しや広報への協力など経済的な支援以外の部分で施策のフォローアップを行い事業者のモチベーションを維持することでコンテンツの成熟や定着を図る。また、ひょうごフィールドパビリオンを機としてエントリーしたコンテンツについては、県の協力を得ながらインバウンド需要を意識した取組を進める。		
総合評価	・観光庁などの国の予算の活用も検討し、積極的に観光施策に取り組んでいく。 ・市内には魅力的な観光スポットや店舗、イベントが多く存在するので、市内外に十分認知されるよう、点ではなく面として市の魅力を整理していく。		

施策評価表

施策分野	6-1 観光	
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。	
施策	(2) 積極的な誘客に向けた国内外への情報発信	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	ー

施策の方向性	○積極的な誘客の展開に取り組みます ○観光情報（資源）の積極的な発信に取り組みます ○観光資源の利用に向けた市民へのPRに取り組みます										
施策を構成する主な事務事業	観光振興・宣伝事業										
実施した主な内容	観光大使によるPRやSNS等を通じた情報発信、宝塚歌劇・市国際観光協会と連携し、宝塚歌劇の本拠地があるまちの特徴を活用したプロモーション事業や市民へのPRとして貸切公演の実施等を行い、市内の魅力発信に努めた。また、インバウンド誘致のために関西国際空港や京都でのプロモーションを実施した。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		観光入込客数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	6623755	目標	11889000	11914000	11939000	11964000	11989000	12014000	
				実績	10149022	10115686	10132521				
		達成状況とその理由	周年事業のイベントの増加により前年度より観光入込客数は増加したが、改修工事による施設の休止等の影響で目標値を達成できなかった。								
	②	指標名									めざす方向性
		外国人観光客数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	-	目標	16843	16988	17133	17277	17422	17566	
				実績	2596	9117	12191				
		達成状況とその理由	国内全体でインバウンド数が増加しており、その影響もあり市内の外国人観光客数も増加した。								
	③	指標名									めざす方向性
		市国際観光協会ホームページへのアクセス件数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		件	277132	目標	325000	350000	375000	500000	500000	500000	
				実績	428755	475062	516479				
		達成状況とその理由	全国的な旅行需要の回復やイベントの増加により、情報を求める需要が高まったものと考えられる。								
	④	指標名									めざす方向性
		観光大使活動回数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		回	-	目標	105	110	150	120	120	120	
				実績	160	137	190				
		達成状況とその理由	周年事業やアフターコロナによるイベントの増加に伴いPR頻度が高まり、出務回数が増加した。								

担当部局 評価	B	評価の 理由	観光需要の回復により市内における観光客数は国内外とも増加傾向となった。観光大使によるPRやSNS等を通じた情報発信、宝塚歌劇・市国際観光協会と連携した市民向け貸切公演の実施や動画配信など、まちの魅力を活用し、積極的なプロモーションを行った。また、インバウンド向けに関西国際空港や京都でのプロモーションを実施、手塚治虫記念館の外国人観光客の増にも繋がったが目標には達しなかった。どの指標においても上昇傾向にあるためB評価とした。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	本市の地域資源を活用し魅力あるコンテンツづくりを進めるとともに、市と市国際観光協会が連携し、県やひょうご観光本部等への働きかけを継続して行い、積極的な情報発信を行う。大阪・関西万博の開催により、日本全体でさらなるインバウンド増加が予想されるため、今後は国内旅行者の取り込みを図るとともに、観光大使によるPRやSNS等を通じた情報発信、インバウンド向けの発信強化を充実させることで、インバウンドの更なる取り込みに注力したいと考える。		
総合評価	・本市はインバウンドのポテンシャルがあると考えられるため、多様なツールや方法でのPRを検討し、更なる誘客を図る。 ・市内には魅力的な観光スポットや店舗、イベントが多く存在するので、市内外に十分認知されるよう、点ではなく面として市の魅力を整理していく。		

施策評価表

施策分野	6-1 観光	
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。	
施策	(3) 持続可能な観光振興に向けた環境整備	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	－

施策の方向性	○来宝者に向けたインフラ整備に取り組みます ○観光に携わる関係者の合意形成と人材の育成を図ります ○観光消費額拡大を目指します										
施策を構成する主な事務事業	温泉施設等管理事業					観光施設維持管理事業					
	温泉施設等管理事業_建物保全					観光振興・宣伝事業					
実施した主要内容	温泉施設については、イベントの実施や観光資源である温泉・タンサンの歴史パネルの展示を行うとともに、温泉水の安定供給のために泉源地の設備修繕等を実施した。また、県や市国際観光協会と連携し、大阪・関西万博のひょうごフィールドパビリオンにおけるツアーの造成、事業者との調整、ガイド育成など観光客が本市の魅力を楽しむことができる環境づくりに取り組んだ。観光噴水については、老朽化が著しいため噴水機能を一旦休止した。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		観光消費額									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		百万円	39719	目標	88503	88690	88878	89065	89252	89439	
				実績	78626	102383	未確定				
		達成状況とその理由	観光消費額は例年10月頃に県より発表されるため、現時点での実績値及び達成状況は不明である。								
	②	指標名									めざす方向性
		市立温泉施設利用者数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	115366	目標	180000	180000	180000	180000	-	-	
				実績	130640	138372	146901				
		達成状況とその理由	目標値には達成しなかったものの順調に推移している。休館日を少なくしたことと集客イベントを定期的に実施したことが要因と推測される。								
	③	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									
	④	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									

担当部局 評価	B	評価の 理由	市立温泉利用施設においては休館日を減らしたことや変わり湯などの集客サービスを定期的実施したこと で利用者数の増加に繋がり、それに比例して温泉供給量も増加した。また、コロナ禍で激減した会員数も徐 々に回復傾向にあるが、コロナ前の利用者数に未だ戻っていないことからB評価とした。
施策を進 める上で の課題と それを踏 まえた今 後の取組	観光振興戦略で掲げる「ウェルネス」の一翼を担う温泉や観光施設を維持管理しながら、利用促進や景観保全など観光振興 に向けた環境整備を行う必要がある。温泉は市の観光振興において欠かすことのできない重要な資源であることから、今後 も継続すべき事業と考えている。一方、市立温泉利用施設は竣工から20年以上経過し、建物や設備の老朽化も著しく今後も 施設運営維持のために多額の維持管理費が必要となることから、民間事業者へのサウンディング情報を参考に施設の在り方 を引き続き検討する。		
総合評価	・市立温泉利用施設については、設備の老朽化等やコロナ禍を経た社会状況の変化を踏まえて、今後どのような方向性を目 指すのかあり方を早急に検討していく。		

施策評価表

施策分野	6-2 商工業	
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。	
施策	(1) 新たな事業の創出	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	－

施策の方向性	○起業しやすい土壌づくりに取り組みます ○創造性の発揮による新事業創出を支援します ○次世代の創造性豊かな担い手育成に取り組みます										
施策を構成する主な事務事業	新事業創出総合支援事業										
実施した主要内容	商工会議所と連携し実施する創業セミナー、市内での起業促進のため起業時の融資に係る利子の一部を補助する制度を実施した。また、49才以下の若手起業家等が起業に向けたコンサルティング等の支援を受けた場合の費用の一部を補助する制度を実施した。 さらに、金融機関等と連携し、企業・創業に係る啓発コーナーを中央図書館にて期間限定ではあるが、設置したり、大学生に対する起業に関する機運醸成セミナーを実施した。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		起業した事業者数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		者	31	目標	34	36	38	40	42	44	
				実績	46	28	36				
		達成状況とその理由	前年度に比し、宝塚商工会議所が実施する創業セミナーと個別支援をの両方を活用するケースが多く、手厚い支援の結果、起業者数が増加した。								
	②	指標名									めざす方向性
		デザイナー等経営革新に必要な人材とマッチングした事業者数（累計）									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		者	-	目標	6	9	12	15	15	15	
				実績	5	7	7				
		達成状況とその理由	デザイン経営実践支援業務委託が令和5年度末をもって終了し、令和6年度に市からの薦めで新たにデザイン経営に取り組んだ事業者はいなかった。（本指標は累計値）								
	③	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									
	④	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									

担当部局 評価	B	評価の 理由	商工会議所と連携し実施した創業セミナーは参加者が前年度比増であったことに加え、同時に個別支援を受けることにより、起業者数が増加した。 デザイン経営の実践支援事業の終了に伴い、市からの薦めで新たにデザイン経営に取り組んだ事業者はいなかったが、これまでの支援対象者への後方支援を行った。 一方、金融機関等と連携し、図書館での啓発コーナーの設置や大学でのセミナーの実施など、市内での起業の機運醸成に向けた取組を新たに行ったことから、総体的に判断し、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	デザイン経営の実践支援事業を3年間行ったが、市内事業者へ十分な浸透には至らなかった。新事業を創出する支援策については、市内事業者のニーズを捉え効果的な施策を検討する必要がある。 学生向けの起業機運醸成セミナーは、就職以外の選択肢として起業を紹介するだけでなく、商工会議所や関係機関の協力を仰ぎながら、特に市内の大学や近隣大学で実施することにより、実態的な市内での起業につなげていきたい。		
総合評価	・デザイン経営支援が市内事業者のニーズを十分に捉えられていなかったことが考えられる。事業者が必要としており、活用しやすい施策を展開していく。		

施策評価表

施策分野	6-2 商工業	
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。	
施策	(2) まちの活性化	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	－

施策の方向性	○個店からエリア全体の魅力向上を図ります ○既存事業所の市内立地継続支援に取り組みます										
施策を構成する主な事務事業	産業振興事業					中小企業振興資金融資幹旋事業					
	企業活動支援事業					商工振興事業					
実施した主要内容	新規出店しようとする事業者に対する設備整備や家賃に対する補助制度や、既存事業者の改装を支援する補助制度などに加え、商店街主体で実施するイベントの開催や販促活動等を支援する制度を行った。また、企業の新設、事業拡充に係る土地家屋、償却資産の固定資産税等に対し補助金を交付し、市内での企業活動を活発化させ雇用促進を図るとともに市外への流出防止に寄与した。 加えて、花のみち周辺において新たな人流を生み、賑わいを創出するイベント等を宝塚商工会議所に委託し、実施した。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		1店当たり年間商品販売額									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		百万円	186 (H28)	目標	200	200	200	200	200	200	
				実績	181 (R3)	181 (R3)	181 (R3)				
		達成状況とその理由	経済センサス活動調査による最新の数値が未更新のため、前年度と同値とする。								
	②	指標名									めざす方向性
		1事業所当たり製造品出荷額等（製造業のみ）									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		百万円	-	目標	1250	1250	1250	1250	1250	1250	
				実績	1258	1205	1213				
		達成状況とその理由	経済構造実態調査の数値を参照。増加しているが、物価高騰の影響も少なからず受けているものと推察する。								
	③	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									
	④	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									

担当部局 評価	B	評価の 理由	商店街が実施するイベントに対する補助支援は、予算額全額を概ね執行し、有効に活用された。新規出店を支援する補助制度は問い合わせ件数に比べ申請件数が少なく、予算を余す結果となった。 市外からの企業誘致や市内事業者の事業拡大を支援する補助制度については、令和6年度をもって補助期間が終了した。新規に補助対象事業者の該当はなかったが、今後も制度を継続する。 各事業の取組結果から総体的に判断し、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	各補助制度を、事業者目線に立った利用しやすいものにしていく必要がある。 課題としては、単年度予算主義の制限がある中で、現状では必ずしも事業者の希望するタイミングと申請期間が合致していないこと、制度の周知不足が挙げられる。 加えて、安定的な経営を行えているか、近隣エリアに相乗効果をもたらしているかといった視点で、補助対象事業者と継続的な関係性の構築に努める。 加えて、商工会議所とも連携し、事業者のニーズに沿った新たな事業展開を検討していく。		
総合評価	・市内の経済循環率が近隣市に比べ低い状況ではあるが、市内には魅力的な店舗、イベントが多く存在するので、市内外に十分認知されるよう、点ではなく面として市の魅力を整理していく。		

施策評価表

施策分野	6-2 商工業									
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。									
施策	(3) 宝塚ブランドを生かした魅力創出									
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり					－				
施策の方向性	○シビックプライドの醸成による地域内経済循環の向上を図ります ○商工業施策と文化芸術施策の連携を促進します									
施策を構成する主な事務事業	宝塚ブランド発信事業				宝塚フェスタ事業					
実施した主要内容	例年参画しているイベントに加え、市制70周年記念レースや神戸まつりなどで物販の実施や、宝塚阪急と連携し、選定資源を中心に市内の銘菓等を集めた特設売り場を新設するなど、「モノ・コト・バ宝塚」のPRに努めた。また、物販等で活用できるPR看板などの物販用ツールを製作した。 実行委員会形式による宝塚サマーフェスタを市制70周年記念事業と位置づけ、幅広い年代が楽しめる内容で開催した。市は補助金の支出とともに、事務局として運営に参画しにぎわい創出と市内事業者の活性化に寄与した。									
成果指標	①	指標名								めざす方向性
		地域経済循環率								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	59.9 (H27)	目標	63	63	63	63	63	63
				実績	59.7 (H30)	59.7 (H30)	59.7 (H30)			
		達成状況とその理由	オープンデータの更新がなされていないため、前年度と同値とする。							
	②	指標名								めざす方向性
		SNS (Instagram、X) のフォロワー数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	－	目標	650	1200	1450	1650	1850	2050
				実績	755	1357	1865			
		達成状況とその理由	Instagramを中心とした発信の強化や物販におけるPRに取り組み、前年度に比して大幅に増加し、目標値を達成した。							
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
				実績						
		達成状況とその理由								
	④	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
				実績						
		達成状況とその理由								

担当部局 評価	B	評価の 理由	モノ・コト・バ宝塚のPRの機会である、物販を年間８回実施し、認知度向上の一助となった。SNSのフォロワー数も大幅に増加している。一方で、物販のあり方やSNS投稿の回数や内容について、課題も散見される。 宝塚フェスタ事業については、大きな事故もなく前年度に及ばなかったものの多くの市民が来場され、にぎわい創出と市内事業者の活性化に寄与した。一方で、運営上の課題も散見され、実行委員会との対話が求められる。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	数ある選定資源の一つひとつの魅力を発信することに加え、「モノ・コト・バ宝塚」の認知度向上が課題となっている。同時に、選定制度を今後どのように継続していくのか等、宝塚ブランド事業のあり方自体を検討する必要があると考えている。 宝塚フェスタ事業については、開催時期や、運営方法、運営費用等の課題が山積しており、実行委員会との十分なコミュニケーションを取りながら、自走していけるよう引き続き協力体制を構築していく。		
総合評価	・市内の経済循環率が近隣市に比べ低い状況にある。モノ・コト・バ宝塚の整理を行い、魅力をしっかりと発信できるよう努めていく。		

施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(1) 農業の持続的な発展	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	－

施策の方向性	○新規就農者や集落営農組織など地域農業の担い手を確保します ○地域に根付いた農業生産を推進します ○農地や農業用施設の適正な維持管理に努めます ○有害鳥獣による農作物被害の減少を図ります ○都市農業の振興を図ります										
施策を構成する主な事務事業	農業委員会事業					農業事務事業					
	農業振興事業					新規就農者確保事業					
	有害鳥獣防除対策事業										
実施した主要内容	野菜・畜産及び花き・植木など農業全般の振興及び農地の維持を目的とし、地産地消の取組、ハウス施設設備への補助、国の交付金に係る活動支援等を行った。また、新規就農希望者への支援により農業者の育成、確保に努めた。 有害鳥獣による農作物被害を防止するため防除及び捕獲の両面から支援を行った。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		集落営農組織数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		団体	5	目標	5	5	6	6	7	7	
				実績	5	5	5				
		達成状況とその理由	令和12年度に10組織を目指しており、令和6年度末までに策定した地域計画において、設立する方向性を打ち出した集落に対して、設立に向けた支援を実施していく。								
	②	指標名									めざす方向性
		農地集積率									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	-	目標	12	14	14	16	16	18	
				実績	11.5	11.95	12.6				
		達成状況とその理由	認定農業者や新規就農者、集落営農組織など担い手への利用権の設定、所有権移転などが進み、前年度比微増したが、目標値には至らなかった。								
	③	指標名									めざす方向性
		有害鳥獣による農作物被害額									↓
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		千円	4140	目標	3500	3500	3500	3500	3500		
				実績	3338	3120	4285				
		達成状況とその理由	侵入防止柵の未整備箇所や古い侵入防止柵から突破されるなどして、イノシシ・シカによる被害が増加した。								
	④	指標名									めざす方向性
		遊休農地面積									↓
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		ha	5.148	目標	4.50411	4.7881	3.14231				
				実績	5.9081	4.26231	6.3917				
		達成状況とその理由	農地の再生を上回るペースで耕作できなくなった農地が増加し、前年度に比し、遊休農地面積が大幅に増加した。								

担当部局 評価	B	評価の 理由	集落営農組織については、地域計画策定の過程でほとんどの対象集落が意向を示していることを確認している。一方で組織化に向けて新たに検討をはじめた集落は現時点ではない。パイプハウスの貸与事業をはじめとする新規就農者への支援により新規就農者や認定農業者等担い手への利用権の設定や所有権移転が進み農地集積率が微増した。一方で、農地の再生を上回るスピードで、耕作放棄される農地が増加し、遊休農地面積が増加した。また、有害鳥獣による農作物被害額も増加しており、これらのことから、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	集落ごとに策定する地域計画において集落営農組織化の意向が示されており、今後地域計画の目標に向けた取組において集落営農組織についても検討していく必要があり、集落ごとに意識や進度が異なるため、市も伴走支援をしながら機運醸成に努める必要がある。担い手への農地集積や遊休農地解消についても、集落が自分たちの集落・農地を守るという意識醸成が重要で、地域計画の目標地図に示された担い手を対象とした農業機器購入に係る補助制度を創設するなどし、支援を行っていく。 有害鳥獣による農作物被害額を減らすためには、侵入防止柵の新規設置や適切な更新に加え、狩猟免許取得者の確保も課題になっている。鳥獣被害防止対策交付金により侵入防止柵の設置が可能であるもの、交付決定額が減額されるケースもあり、被害の深刻度を見極め適切に侵入防止柵を設置していく。		
総合評価	・地域計画の目標設定や農地所有者及び地域住民の意向を尊重しつつ、農地の立地などの本市の特性を踏まえた上で施策を推進していく。		

施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(2) 農業の新たな価値創出の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	－

施策の方向性	○「農」を支える交流や農村への移住・定住などを促進します ○農商工連携や異業種交流の取組を推進します ○農福連携など農地の新たな活用に取り組みます ○スマート農業や再生可能エネルギーなど新技術の導入を進めます										
施策を構成する主な事務事業	ダリアで彩る花のまちづくり事業										
実施した主要内容	市内の商業施設と連携し、市花ダリアを用いた花飾りイベントを開催した。また、市制70周年記念イベントとして、市民の参加により、花のみちにダリアで作ったブーケを並べる新たなギネス世界記録を達成し、認定された。これらの取り組みにより、市内外へのPR及び市花ダリアの認知度の向上と魅力発信につなげた。 モノ・コト・バ宝塚の選定は行われなかったが、PRを強化し露出度を高める取組を行った。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		「農」に関する「モノ・コト・バ宝塚」選定資源数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		件	29	目標	35	38	38	41	41	44	
				実績	34	34	34				
		達成状況とその理由	令和6年度は「モノ・コト・バ宝塚」の新たな選定は行われなかったため、前年度と同数とする。								
	②	指標名									めざす方向性
		ダリア生産に係る売上高									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		千円	-	目標	42000	43000	44000	45000	45500	46000	
				実績	45000	44000	37000				
		達成状況とその理由	夏の酷暑、降雨量の少なさによるダリアの開花不順の影響により、球根出荷数等が減少し、売上額が目標値及び前年度実績を下回った。								
	③	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									
	④	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									

担当部局 評価	B	評価の 理由	夏季の少雨、酷暑の影響や秋季のイベント開催日の悪天候など、天候に左右される部分が多かったが、宝塚ダリア園の来園者数は昨年度より微増した。ダリア生産に係る売上高についても、天候による影響が大きく、ダリアの開花不順から、球根出荷数等が減少し、売上額が目標値及び前年度を下回った。指標の達成はできなかったものの、ギネス世界記録達成を通してダリアの魅力発信を実施できた。農に関する選定資源を含む「モノ・コト・バ宝塚」のPRに取り組んだ。また、ドローンを活用した新たな農法を導入する農業者も現れ、作業軽減の可能性が大きいことを確認した。これらのことから総じてB評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	ダリア生産は気象に左右される部分がある。今後も生産事業者と意見交換を行い、併せて市内外の公共施設や商業施設と連携しながら、本市の地域資源であるダリアの認知度向上やギネス世界記録の認定を受けていることなどを強みに市内外に向けて魅力発信に取り組む。 ドローンを活用した農法を試験的に導入する集落の後方支援に努め、さらなる拡大を目指し進めていく。		
総合評価	・モノ・コト・バ宝塚のあり方を今後検討していく上で、選定資源数を指標に設定していることについても同時に検討していく必要がある。 ・ダリア産業を市として盛り上げていくために、後継者確保への協力や、市民の認知向上に取り組んでいく。		

施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(3)「農」に触れ「農」を知る機会の創出	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	－

施策の方向性	○「農」に触れる機会の創出を図ります ○「農」に関する普及啓発活動を推奨します ○「地産地消」の取組の支援を行います ○地域の特性を生かした観光農業を活性化します									
施策を構成する主な事務事業	園芸振興事業				農業振興施設管理事業					
	市民農園事業				長谷牡丹園管理運営事業					
	農業振興施設管理事業_建物保全				園芸振興事業_建物保全					
実施した主要内容	令和6年度は4月25日～5月19日まで長谷牡丹園を開園した。また、牡丹の栽培技術や園内管理の知識を深めるため、園内及び松江市大根島において、専門家による研修を実施し、技術向上に取り組んだ。 宝塚植木まつりを春期、秋期の2回、計8日間開催するとともに、会期中にシンポジウムを実施した。加えて、市内小学校3校において接ぎ木講習会を実施するなど、花き・植木産業の歴史及び魅力発信に努めた。 農業振興施設（西谷夢市場）において、農産物及び加工品の販売を行い、地産地消を推進し、農産物を通じて都市部と農村部の相互交流を推進した。また、昨今の米不足の影響から来場者が増加した。									
成果指標	①	指標名								めざす方向性
		市民農園利用者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	577	目標	640	660	680	700	720	740
				実績	483	587	572			
		達成状況とその理由	前年度は新たな農園の開設により、大幅な増となったが、R6年度は民営の市民農園の利用者が減少し、全体的には前年度とほぼ同水準であった。							
	②	指標名								めざす方向性
		「農」に関する講習会等参加者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	800	850	900	950	1000	1000
				実績	879	844	1252			
		達成状況とその理由	市内小学校3校で接ぎ木講習会を開催し、子どもたちが花き植木に触れる機会を創出したことで、対象者数が大幅に増加した。							
	③	指標名								めざす方向性
		長谷牡丹園入園者数								→
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	0	目標	6000	6000	6000	6000	6000	6000
				実績	4096	4854	4608			
		達成状況とその理由	天候により牡丹・芍薬の開花に影響を受けたことから、開園期間が例年と比べ短くなり、入園者数が減少した。							
	④	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
				実績						
		達成状況とその理由								

担当部局 評価	B	評価の 理由	長谷牡丹園については指定管理者により、開園期間中のイベント開催や飲料ブースの設置など来園者に満足いただけるよう取り組まれている。また、開花期間が限定される中、積極的に近隣市町等へのチラシ配布を行うとともに、市ホームページやSNS等を活用した情報発信に努めているが、開園期間が短く、入場者数としては、微減となった。 農に関する講習会等については、県の協力を得ながら、市内の子ども達を対象にした新たな取組を開始した。一方で、園芸振興施設及び農業振興施設の利用者数は概ね、横這いである。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	園芸振興施設及び農業振興施設においては、施設の魅力発信や新たな顧客層の開拓に取り組む必要がある。植木まつりやオープンガーデンフェスタ、実行委員会形式で実施する収穫祭なども含め、様々な機会を捉え、本市の農産物・花き植木産業のPRに努め各施設の来場者や売上の増加につなげていく。特に地場産業である花き植木産業の振興については、花き園芸協会や県とも連携しながら、新たな取組を検討していくとともに、あいあいパークの開園25周年を踏まえ、記念事業などで集客を図っていく。 長谷牡丹園については、開園より20年以上経過し、施設等経年劣化が進んでいる状況である。今後も牡丹栽培にかかる技術指導を受けながら、来園者に満足いただけるよう牡丹の栽培育成に取り組む。		
総合評価	・小学校で接ぎ木講習会を実施し、子どもたちに市内の花き・植木産業を知ってもらい触れてもらう機会を創出できたことは成果と考える。 ・長谷牡丹園については、年間で開園期間が1か月にも満たないため、年間を通じて集客できる取組を検討していく必要がある。		

施策評価表

施策分野	6-4 雇用・労働環境										
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。										
施策	(1) 誰もがいきいきと働くための就労支援										
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり					○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり					
施策の方向性	○雇用・就業促進と安定のための支援に取り組みます ○潜在的に就労を希望する人へのきめ細やかな支援に取り組みます										
施策を構成する主な事務事業	就労支援事業					ワークサポート宝塚運営事業					
	勤労者住宅資金融資斡旋制度預託金										
実施した主な内容	ハローワークとの一体的事業として共同で開設したワークサポート宝塚において職業相談及び職業紹介、求人情報の提供等を実施した。加えて就職支援セミナーや面接会を開催するほか若者しごと相談における継続的な相談事業を行った。 就職にあたり課題や困難を抱える人を対象とした若者就労支援事業や就職氷河期世代を対象としたリモート型就労支援事業を実施し、就職までの伴走支援を行った。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		ワークサポート宝塚における就職率									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	38.2	目標	37	42.5	42.5	42.5	42.9	42.9	
				実績	42.5	42.9	41.3				
		達成状況とその理由	新規求職者数（1605人）とともに就職件数（663件）も令和5年度と比べ減少し、目標を下回った。								
	②	指標名									めざす方向性
		若者しごと相談利用者の就職率									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	-	目標	14.2	14.2	14.2	14.2	14.2	14.2	
				実績	19.1	15.4	14.2				
		達成状況とその理由	相談件数（954件）及び就職件数（136件）ともに減少し、前年度比微減となった。								
	③	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									
	④	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									

担当部局 評価	B	評価の 理由	ワークサポート宝塚の来所者が減少しただけでなく、新規求職者や相談件数、紹介件数が減少したことから就職率は目標値を達成することができなかった。一方で、就職支援セミナーや面接会の開催や困難を抱える人を対象とした若者就労支援事業や就職氷河期世代を対象としたリモート型就労支援事業を実施し、就職までの伴走支援を行い、27人の就職実現に至ったため、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	ワークサポート宝塚の利用について、今後は必要とする人に届く効果的な発信に取り組むなど広報活動を強化し、来所者数の増加を目指すとともに、相談者それぞれの状況に応じた職業紹介を実施することで就職率の向上に努める。引き続き、就職に向けて困難を抱える人に対する支援策を継続する。		
総合評価	就労支援については、福祉や教育等、他の所管部署の事業と関連性が高いため、市全体として包括的な就労支援対策の在り方について今後検討していく。		

施策評価表

施策分野	6-4 雇用・労働環境									
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。									
施策	(2) 働く場の創出と多様な働き方の実現									
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり					○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり				
施策の方向性	○新たな就労機会の掘り起こしに取り組みます ○ワーク・ライフ・バランスの実現や新しい働き方の定着に向けた取組を促進します									
施策を構成する主な事務事業	高年齢者就業機会確保事業					労働行政事業				
実施した主要内容	雇用促進連絡協議会をはじめ、各種広報媒体においてワークライフバランスの実現をはじめとした各種制度の周知や啓発活動を実施した。 市内の労働者や雇用の実態を把握し、今後の施策展開の基礎資料とするため労働実態調査を実施した。 高齢者に臨時的短期的な就労機会を提供し能力活用を図ることにより、高齢者のいきがいづくりと活力ある地域社会づくりに貢献する公益社団法人宝塚市シルバー人材センターに対し、センターが行う高齢者就業機会確保事業に要する経費を補助するとともに、会員確保及び就労機会に資する受注件数増に向けて広報活動を行った。									
成果指標	①	指標名								めざす方向性
		市内従業者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	54, 498 (H28)	目標	63400	63400	63400	63400	63400	63400
				実績	54498	54613	54613			
		達成状況とその理由	令和3年度の経済センサス活動調査が最新の数値のため、前年度と同値となる。							
	②	指標名								めざす方向性
		昼夜間人口比率								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	82	82	82	82	82	82
				実績	81.0	81.0	81.0			
		達成状況とその理由	令和2年度の国勢調査の数値が最新の数値のため、前年度と同値となる。							
	③	指標名								めざす方向性
		有給休暇を80%以上取得している人の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	20.3 (R1)	目標	49	49	49	49	49	49
				実績	20.3	20	29			
		達成状況とその理由	令和6年度に実施した労働実態調査に基づき更新する。働き方改革やワークライフバランスの啓発による使用者、労働者ともに意識改革が進んでいるものと推察する。							
	④	指標名								めざす方向性
		シルバー人材センター会員の就業率								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	61.4	目標	62	62.3	62.6	62.9	62.9	62.9
				実績	60	67.1	60			
		達成状況とその理由	シルバー会員のニーズと依頼業務のミスマッチにより、就業率が減少した							

担当部局 評価	B	評価の 理由	雇用促進連絡協議会の活用や各種広報媒体においてワークライフバランスの実現をはじめとした各種制度の周知や啓発活動を実施した。加えて、商工会議所と連携し、物価高騰やICT化が進む社会情勢の変化に雇用側の事業者が対応できるよう、取組を進めた。 また、シルバー人材センターの取組を広く周知するため、広報活動を積極的に実施するなど市としても支援を行ったが、会員が希望する事業が少なく、昨年度の就業率の維持にはつながらなかった。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	本市の昼夜間人口比率は県平均と比べ低い値となっており、雇用の機会創出のために起業創業の支援とともに既存事業所の市外流出防止に努める必要がある。 ワークライフバランスの実現をはじめとする各種制度の周知と啓発は、雇用促進連絡協議会会員をはじめ、市内事業者に向け効果的な発信方法を検討する。 シルバー人材センターにおいては、会員の就業機会を増やすため新規も含めた受注可能な事業の開拓が必要であり、市としても広報活動等の支援に取り組む。		
総合評価	・ワークライフバランスや働き方の見直しは社会的に重要なテーマであるため継続して啓発を行う必要がある。 ・シルバー人材センターは会員のニーズと依頼者のニーズを両方考慮しながら、高齢者の就業機会と能力発揮の場として継続的に支援していく。		

施策評価表

施策分野	6-4 雇用・労働環境										
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。										
施策	(3) 労働問題の防止と解決に向けた環境づくり										
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり					－					
施策の方向性	○適正な労働環境の確保に向けた取組を促進します ○相談窓口の周知・他機関との連携に取り組めます										
施策を構成する主な事務事業	労働行政事業										
実施した主要内容	労働実態調査を実施した。労働問題審議会では同調査の調査内容及び報告、並びに第二次労働施策推進計画の進捗管理等に関し審議いただいた。また、労働問題相談を定期的に実施するとともに宝塚市雇用促進連絡協議会の運営を支援し、同協議会とともに労働問題に関するセミナーを実施したり、会員企業への啓発活動を行った。全体を通じ、使用者、労働者双方の側面から労働問題解決に向けて取組を行った。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		国の総合労働相談コーナーの認知率									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	25.3 (R1)	目標	50	50	50	50	50	50	
				実績	25.3 (R1)	25.3 (R1)	25.8				
		達成状況とその理由	令和6年度に実施した労働実態調査に基づく。広報活動や市への問い合わせ時の紹介などに努めたが前回調査時とほぼ横這いの数値となった。								
	②	指標名									めざす方向性
		苦情（ハラスメント）相談窓口を設置している事業所の割合									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	－	目標	77	77	77	77	77	77	
				実績	－	－	48.4				
		達成状況とその理由	令和6年度に実施した労働実態調査に基づく。約半数の事業所が設置しているものの、ハラスメント自体の認知度が先行し、その対策手段である窓口の設置が後追いになっている状態と推察する。								
	③	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									
	④	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									

担当部局 評価	B	評価の 理由	適正な労働環境を確保するために、雇用促進連絡協議会主催のセミナーを実施したり啓発活動に注力し、労働問題全般の未然防止に努めた。一方でトラブル発生時の相談窓口の周知にも注力したが、認知度は目標値に届かずほぼ同水準で推移しており、さらなる周知の強化が必要である。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	国の相談窓口に加え、市で実施する労働問題相談の認知度向上に努め、利用者が必要とする時にスムーズに活用できるよう利用促進を図る。 ハローワークや労働基準監督署、兵庫県、シルバー人材センターや宝塚商工会議所など、相談内容に応じ最適の相談先を適切に判断し、つないでいく。 労働実態調査の調査結果に基づき、より一層の実態把握に努め、今後の施策展開に活かす。		
総合評価	・労働者が安心して働ける環境は、労働する上で基礎となる部分であるため、関係機関と連携しながら継続して啓発に取り組んでいく。		

施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。 ○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。	
施策	(1) 文化芸術に触れ、創造する喜びを実感できる環境づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	ー

施策の方向性	○文化関連施設の有機的連携（協働）を推進します ○誰もが文化芸術に触れ、楽しめる環境づくりに取り組みます ○いつでも文化芸術に親しめるよう情報発信に取り組みます ○子どもをはじめ市民の創造性を育みます										
施策を構成する主な事務事業	手塚治虫記念館管理運営事業					文化芸術センター・庭園管理運営事業					
実施した主要内容	文化芸術センターについては、有料企画展を4回開催するとともに、他市で開催されていた団体展や公募展等を数多く誘致するなど文化芸術への関心の向上や本市への誘客に取り組んだ。また、ワークショップやギャラリートークなど、子どもから大人向けの幅広い分野のイベントの開催のほか、定例的に市内事業者が参画するマルシェを実施し、地域活性化に向けた取組を推進した。また、手塚治虫記念館においては、開館30周年を記念したセレモニーやトークショーを行うなど記念館を広く周知する取組を行った。加えて、隣接する施設（文化芸術センター・手塚治虫記念館・文化創造館）において「3館おさんぽラリー」などのエリア一帯での事業展開に努めた。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		文化芸術センター及び庭園の来場者数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	452885	目標	510000	640000	680000	700000	700000	700000	
				実績	787714	628985	627147				
		達成状況とその理由	前年度実績から微減し目標には達しなかった。施設のオープンから5年が経過し、施設の利用率（稼働率）は増加傾向にあるものの有料展覧会の入場者数は減少している。								
	②	指標名									めざす方向性
		「文化芸術活動によく親しんでいる」と回答した市民の割合									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	-	目標	-	28	-	30	-	30	
				実績	-	8.5	-				
		達成状況とその理由	令和6年度アンケート調査は未実施。令和5年度については、新型コロナウイルス感染拡大を契機として一部の高齢者等が文化芸術活動から引退し、再開に至っていないと思われる。								
	③	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									
	④	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									

担当部局 評価	B	評価の 理由	指標①②ともに目標値に届かなかったが、文化芸術センターでの文化芸術や宝塚に対する愛着醸成、関心向上に向けての取組や手塚治虫記念館での開館30周年記念事業、隣接する施設（文化芸術センター・手塚治虫記念館・文化創造館）と連携したエリア活性化に向けた取組は「めざす方向性」と一致していることから、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	文化芸術センターの来場者数は目標に達しておらず、施設やイベントなどの市内外に向けての情報発信不足が課題となっている。また、本市の文化芸術に関する審議会である「宝塚市民文化芸術振興会議」においてもアウトリーチ活動などの地域での展開や連携が課題との意見もいただいている。 企画展では本市ゆかりのイラストレーターやアーティストによる展覧会等を実施するとともに、開催期間を数か月設けることにより周知を図り入場者の増加に努めている。また、これまで市民との協働や地域との連携に実績のある文化財団に指定管理者が交代することから、市民サポーター活動や市内の関係機関との連携事業の充実を図っていく。		
総合評価	・文化芸術のまちの中心拠点として引き続き、花のみちを含めた、文化芸術センター・手塚治虫記念館・文化創造館の3館の集客と周遊性を向上させる取組を推進していく。		

施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。 ○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。	
施策	(2) 文化芸術により人と人とがつながる取組の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	－

施策の方向性	○活動カテゴリを越えた交流や連携の促進を図ります ○地域間交流を継続させ、推進します ○人材や市民組織（団体）の育成を図ります										
施策を構成する主な事務事業	文化振興事業										
実施した主な内容	他都市（大分市、浜松市、松江市）との文化交流の実施や高校生美術部展などの開催、宝塚映画祭やストリートピアノの運営など多岐にわたった文化振興に資する事業を引き続き実施した。 また、市制70周年記念事業として甲子園学院所蔵作品展や豊岡演劇祭2024in宝塚などを実施した。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		協働による文化芸術関連事業数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		事業	65	目標	115	140	150	164	164	164	
				実績	138	140	142				
		達成状況とその理由	昨年度実績から微増となったが、市民団体による市制70周年記念事業の一部が他課による後援事業となったため、目標は達成できなかった。								
	②	指標名									めざす方向性
		文化芸術関連の市民ボランティアの登録者数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	-	目標	205	235	265	300	300	300	
				実績	111	112	110				
		達成状況とその理由	従前からのボランティアの高齢化に加えて担い手不足が顕在化しており、登録者数が微減、目標に達しなかった。								
	③	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									
	④	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									

担当部局 評価	B	評価の 理由	指標①②ともに目標を達成できなかったが、ここ数年の実績からはほぼ同程度で推移しているとともに、他都市との文化交流や教育機関との連携事業、ストリートピアノによる賑わい創出に加えて、市制70周年記念事業の実施など多岐にわたる取組は「めざす方向性」と一致していることから、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	定年延長や人手不足などによる現役世代の高齢化や子育て世代の共働きが進んでおり、文化芸術活動を含む市民活動やボランティア活動の担い手確保が課題となっている。また、事務事業見直しにより休止となる事業があることから、引き続き、市民や各種団体が行う文化活動を支援し連携を進めることで、誰もが芸術文化に触れられる環境づくりに努めていく。		
総合評価	・文化芸術に関する市民活動が活発に行われていることが、文化芸術のまちを下支えする基礎となると考えるため、継続して支援を実施していく。		

施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流		
めざすまちの姿	○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。 ○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。		
施策	(3) 文化芸術により成長を続けることができる取組の推進		
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	ー	

施策の方向性	○市民の文化芸術活動などの支援の充実を図ります ○文化芸術の持つ創造性を生かし、他の分野との有機的連携を進めることにより、地域の社会課題解決や活性化の取組を推進します										
施策を構成する主な事務事業	宝塚文化創造館（宝塚音楽学校旧校舎）管理運営事業					文化施設管理運営事業					
実施した主な内容	文化財団を指定管理者として、ベガ・ホール、ソリオホール、文化創造館の管理運営を行うとともに、国際室内合唱コンクールや宝塚ベガ音楽コンクール、宝塚市展等の指定事業や各種文化団体との協働による様々な芸術文化事業を実施した。また、豊岡演劇祭や宝塚駅周辺のイベントなど他団体とも連携を図りながら事業に取り組んだ。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		文化施設（ベガ・ホール、ソリオホール、宝塚文化創造館）の利用率									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	60.1	目標	68	71	72	73	73	73	
				実績	67.5	68.2	71.3				
		達成状況とその理由	一部施設の利用率が42%と低く目標に達しなかったが、昨年度実績を超え、順調に推移している。								
	②	指標名									めざす方向性
		観光、産業、教育など、他分野と連携した取組数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		事業	-	目標	49	66	83	100	100	100	
				実績	47	52	56				
		達成状況とその理由	市制70周年記念事業等の実施により昨年度実績を上回ったが、他分野への働きかけが依然不足しており目標に達しなかった。								
	③	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									
	④	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									

担当部局 評価	B	評価の 理由	指標①については、ソリオホールは会議室を含め77%、文化創造館は74%、ベガ・ホールはホール93%で高水準であるが、会議室等が42%であり目標に達しなかった。また、指標②については、観光や産業、教育等との連携を進め、市制70周年記念事業を含む様々な事業に取り組んだが、他分野への働きかけが依然不足しており目標に達しなかった。一方、指標①②ともに昨年度実績を上回り増加傾向にあることから、B評価とした。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	施設の経年劣化や老朽化が進んでおり、今後も計画的な大規模修繕や設備更新が必要である。また、他分野との連携をより一層進めるため、関係部局や関係機関、指定管理者等と連携し新たな事業展開を図る必要がある。 引き続き、ベガ・ホールにおいて各種コンクールやオルガンコンサート、文化創造館においてすみれミュージアムの運営や歌劇関連のコンサートなど施設の特色を活かした事業を実施するとともに、文化芸術センターの管理運営を文化財団が担うことを契機として、文化創造館、手塚治虫記念館との3館連携による取組を継続し、観光や産業など他分野との連携を視野に入れながら「宝塚文化の創造・発信」を図っていく。		
総合評価	・文化芸術のまちとして、引き続き事業を推進していくとともに、市民とともにまちづくりを進めてきた歴史を大切にし、産業振興や地域活性化にもつなげていく。		

施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。 ○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。	
施策	(4) 歴史や文化、習慣の違いを認め、尊重する地域社会の構築	
総合戦略での位置付け	－	－

施策の方向性	○多文化共生や異文化相互理解を推進します ○インバウンド・アウトバウンドなどで国際理解を推進します											
施策を構成する主な事務事業	国際・文化センター管理運営事業						国際交流事業					
実施した主な内容	外国人市民を対象とした日本語教室や個別指導、生活相談等を実施するとともに、外国ルーツの子どもたちの学習支援、その保護者も含めた居場所づくりにも取り組んだ。また、外国人や異文化への理解を促進するため、引き続き異文化相互理解事業を実施した。											
成果指標	①	指標名										めざす方向性
		外国人支援件数										↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
		件	1428	目標	1698	1868	2055	2260	2486	2486		
				実績	2131	2529	2284					
		達成状況とその理由	目標は達成したが、一部の施設において対象者の減により学習支援・日本語教室への参加者が減少したため、昨年度からは減となった。									
	②	指標名										めざす方向性
		国際・文化センターの利用率										↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
		%	-	目標	50	55	60	62	62	62		
				実績	52.8	58.5	57.9					
		達成状況とその理由	高齢化等により活動を休止する団体が増加傾向にあり、その結果目標を下回ることになった。									
	③	指標名										めざす方向性
												↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
				目標								
				実績								
		達成状況とその理由										
	④	指標名										めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
				目標								
				実績								
		達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	指標①については、コロナ回復期において増加した転入外国人の減少から、学習支援・日本語教室も昨年度から減となったが目標は達成した。指標②については、昨年度実績からわずかに減少し目標は達成できなかった。国際交流協会と連携し、日本語教室や個別指導、生活相談など寄り添った支援を行うことでニーズに沿ったきめ細やかな事業展開を図れたことから、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	少子高齢化による労働人口の減少が見込まれることから、これまで以上に技能実習生等の外国人の来日が促進されるとともに、隣人としての外国人市民が増加していくことが想定され、外国人市民への支援や多文化共生社会の実現に向けての方策の必要性がますます高まっていくものと思われる。 引き続き、国際交流協会による日本語教室や個別指導、生活相談をはじめ、外国ルーツの子どもたちのための学習支援や居場所づくりに取り組むとともに、ニーズに沿ったきめ細やかな事業展開に努める。		
総合評価	・今後、外国人市民の増加が予想され、本市も今まで以上に多文化共生社会としての取組が求められるため、市内の活動団体と協働で支援を展開していく。		